

じん だい が わ  
神代川かわまちづくり

～日本発祥の地「神都 高千穂」～



「神代川 天真名井周辺の整備」は、  
過去の河川工事により失われてしまった  
神代川の環境・景観や人と川との関係性の再生を目標としています。  
宮崎県と高千穂町、住民とが連携して川とまちを一体とした様々な取り組みを行う  
「神代川かわまちづくり計画」の中に位置付けられています。  
平成28年度に工事着工して以降、  
自然に蛇行した川の形や石積みの護岸、  
岩河床等の整備が進み、徐々にかつての神代川の姿に近づいてきています。  
「神代川かわまちづくり計画」の検討経緯・詳細は、  
下記ホームページをご覧ください。



お問い合わせ

〈かわづくりに関すること〉宮崎県西臼杵支庁土木課 TEL0982-72-3191  
〈まちづくりに関すること〉高千穂町役場建設課 TEL0982-73-1210





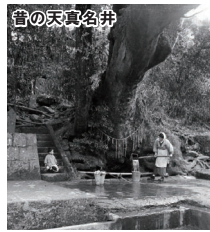
# 神代川かわまちづくり計画について



## 川とともに生きることの喜びを取り戻すために

かつての神代川は、地形・地質なりに蛇行した自然豊かな川であり、水を飲んだり、ものを洗ったりするなど人々の生活に密着した川であり、夏場には子どもたちが水遊びや魚取りに興じる姿が見られていました。しかし、昭和47年の工事により、蛇行していた河道は人工的なS字カーブのコンクリート三面張水路に改修され、またニニギノミコトが「水の種」をもたらしたことで湧いた泉とされる『天真名井』の湧水は減少してしまい、人々の生活と川の緊密な関係は希薄になってしまいました。

『神代川かわまちづくり計画』では、地域の人びとが高千穂地域の環境と景観の再生を機に、川とともに生きることの喜びを取り戻し、またこの地域を訪れる人びとに日本文化の原風景の体験を共有できるように、川とまちとが一体となったかわまちづくりを行いました。



昔の天真名井



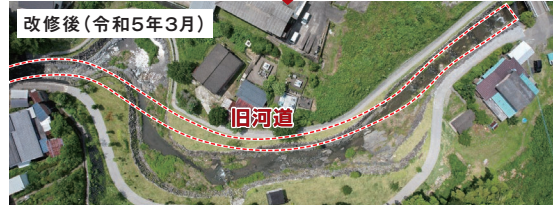
昔の神代川(川で遊ぶ子供たち)

- ①昔のような川の姿への再生
- ②人と川の関係性の再生



改修前の神代川(コンクリート3面張りの川)

## ●昔のような川の姿への再生(かわづくり)



昔の蛇行した川の姿の再生

昔の航空写真を参考に、模型上に毛糸で昔の蛇行した川の姿を表現。毛糸に沿って模型を修正して設計・施工に反映。



試験施工による石積みの確認

複数の石積みパターンで試験施工を行い、地元の方々意見を踏まえて「野面石の乱積み」を採用。



パラペット撤去による川との関係性の再生

天真名井と川を隔てていたパラペット(コンクリートの壁)を撤去し、木柵と川に近づくことができる階段を整備。



模型実験による洪水時の安全性の確認

九州大学の実験場で蛇行した川を表現した模型に実際に水を流して、洪水を安全に流すことができるかを確認。



擬岩コンクリートによる川底の整備

昔の川底が岩盤であったことを踏まえて、昔の川の雰囲気再生するため、擬岩コンクリートにより川底を整備。



水質改善・水量確保に向けた取り組み

一年を通してきれいで豊かな神代川の流れを感じられるよう、水質改善・水量確保に向けた調査・検討を実施中。

## ●神々の郷としての演出(まちづくり)

### 高千穂神社と櫛觸(くしふる)神社を結ぶ神殿通りの高質化



- 神殿通りは多くの住民や観光客が利用するメインストリート。整備前は所々舗装が剥がれており、神々の郷としての雰囲気にとぐわらないものとなっていた。
- そこで、誰もが快適に散策できるように、高千穂神社の参道との一体感を演出して、石畳風の型押しアスファルトで舗装整備を実施。

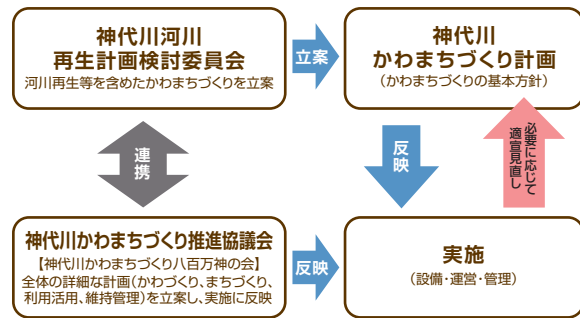
### 安心して歩ける夜間照明の整備



- 整備前の神殿通りは夜間の暗さが問題視されており、特に歩きながらいない観光客に不安を与える環境となっていた。
- 通り沿いに照明の整備を行うこととし、そのデザインは高千穂神社参道との一体感を創出するために、腰高サイズの灯籠型照明を採用。

## 神代川かわまちづくり推進協議会・検討委員会について

「神代川かわまちづくり計画」の推進に向け、行政・地域・専門家・NPOなどから構成される「神代川かわまちづくり推進協議会」と、主に大学の学識者などから構成される「神代川河川再生計画検討委員会」の協働により計画の検討・実施を行いました。また、整備の進捗状況は「施工見学会」の開催を通じて、随時地域の方々に確認していただきました。



神代川かわまちづくり推進協議会



神代川河川再生計画検討委員会



施工見学会